

## 岡崎むかし館

### てつかぶと ぼうくうすきん 鉄兜・防空頭巾



岡崎むかし館蔵

この鉄兜は、<sup>へいたい</sup>兵隊が<sup>せんち</sup>戦地で着用したものではなくて、一般人(民間人)が<sup>ぼうくう</sup>防空(航空機など空からの攻撃を防ぐ)用に使用した鉄製のヘルメットです。鉄兜や防空頭巾は、常に<sup>くうしゅう</sup>空襲の危険がある戦時下の暮らしにおいて、空襲による<sup>ひらいぶつ</sup>飛来物や<sup>らつかぶつ</sup>落下物、そして火事などから頭部を守るために、身のまわりに常備していた道具です。空襲警報が<sup>けいほう</sup>発令されると、みな鉄兜や防空頭巾をかぶり、とにかく<sup>たいひしょ</sup>防空ごう(空襲から身を守るため、地面を掘って作った待避所)に<sup>ひなん</sup>避難したりしました。

おもに防空頭巾は、女性や子どもたちに使われ、鉄兜は男性が着用していました。空襲が<sup>はげ</sup>激しくなるにしたがい、頭と顔をつつむ長さであった防空頭巾も、肩までおおう長さとなり、綿もしっかり入ったものが多くなります。綿入りの頭巾は<sup>ぼくおん</sup>爆音から耳を守る役割も果たします。ものが不足していた当時、<sup>ふるぎ</sup>古着などを利用して作られ、子どもたちの防空頭巾には、けがを負った時の身元確認ができるように「住所・学校名・氏名・生年月日・血液型」などを記した布が<sup>ぬい</sup>縫い<sup>つけ</sup>付けられていました。

まさに鉄兜や防空頭巾は、命を守る道具として、戦時下の暮らしを象徴するものです。

<参考文献> 『戦争とくらしの事典』ポプラ社、2008年

『目で見える戦争とくらし百科4』日本図書センター、2001年